

第1回協議会での委員意見・対応状況

*該当頁・・・第1回:2025年7月24日第1回協議会資料「中間見直し」

番号	★該当頁	該当項目	委員	意見の内容	対応方針	反映内容	本編 初版頁	反映項目	関係課
1	第1回 11 ほか	用語の定義	井野 田口	「カーボンニュートラル」を「ネット・ゼロ」としてはどうか。地球温暖化対策では二酸化炭素だけでなく温室効果ガス全般を削減対象としていることから、環境省も「ネット・ゼロ」を用いている。 新しい概念の提案であれば、内容を相談して採用されたい。	本市の脱炭素関連の他の計画において、現時点で「ネット・ゼロ」の表記は予定していないため、本計画においても「カーボンニュートラル」の表記とします。	—	—	—	みどり 政策課
2	本編	用語の定義	勝木	現計画の第1章と第2章とでは言葉の使い方に違いがある。構成上、ある程度やむを得ないという理解でよいか。	ご指摘のとおりやむを得ない部分がありますが、必要に応じて反映させます。	1章の「作業道」を2章にあわせ「森林作業道」とします。	P30,39 ,53,54	—	みどり 政策課
3	第1回 36	上位計画との整合	草野 松下 田口	検証指標についてわかりにくいので説明いただきたい。 「検証指標」は「目標」とは違うのか。 表の掲載部分に説明を記載し、市民が理解しやすい表現にされたい。	「目標値」という言葉に統一します。 表を修正し、説明文を追加します。	上位計画と整合するよう目標値(検証指標)で併記し、説明文を追加します。	目次 P51	Ⅲ-5 検証指標の設定(1)(2)(3)	みどり 政策課
4	第1回 36	上位計画との整合	草野	「森に親しんだ市民の割合」アンケートについて、令和5年度にすでに23%は達成しているところ、健全な森づくり推進計画と第8次総合計画とを整合させる必要があるか疑問。	23%を今後も継続達成すべき目標として、原案を維持します。	—	—	—	みどり 政策課
5	第1回 36	上位計画との整合 竹林対策	松下	表に実績と目標が併記されていると分かりにくい。例えば「取り組んだ面積および今後の目標」という見出しにしてはどうか。	毎年の値を目標値と比べて確認していきけるような表現に表を修正し、説明文を追加します。	表を左記のとおり修正します。	P51	Ⅲ-5 検証指標の設定(1)(2)(3)	みどり 政策課
6	第1回 19	上位計画との整合 竹林対策	草野	「放置竹林対策に取り組む団体の活動継続を支援」と記載があるので、国の対策事業終了後の竹林環境を維持していくためにも森林環境譲与税を活用いただきたい。	今年度から、国の交付金は3年以上支援できるようになりました。	以下の文言を追加します。 「放置竹林有効利用推進事業に森林環境譲与税を使用している。」	P44 P54	Ⅲ-2 推進方策(2) Ⅲ-7 譲与税の活用(3)⑤ウ	みどり 政策課 花とみどり 協働課
7	第1回 23	上位計画との整合 竹林対策	草野	「放置竹林対策と竹林の有効利用を推進」と記載があるが、新しい計画には、上位計画である「活動の継続を支援する」という文言を入れていただきたい。	文言の追加・反映します。	以下の趣旨の文言を追加します。 「活動継続を支援する」	P40 P44 P52	Ⅲ-1 方向性(3)② Ⅲ-2 推進方策(2) Ⅲ-6 協働体制	みどり 政策課 花とみどり 協働課
8	第1回 36	上位計画との整合 竹林対策	井野	放置竹林対策について 令和6年までの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」は、令和7年度から「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金」となり、資源の有効活用の取り組みが必須となった。継続的に竹林内に管理を入れるのが国のねらいである。	新・旧の交付金の名称を分かるように追記します。	新旧名称を併記・注意書きし、新名称で統一します。	31, 32,33, 36,44, 51	—	みどり 政策課 花とみどり 協働課

*該当頁・・・第1回:2025年7月24日第1回協議会資料「中間見直し」

番号	*該当頁	該当項目	委員	意見の内容	対応方針	反映内容	本編初版頁	反映項目	関係課
9	本編	安全対策	勝木	<p>現行の推進計画で足りていないと思われる3点を提案。 提案1) 倒木・野生哺乳類に対する安全対策</p> <p>倒木に対しては、道路にかかる木や竹に対して、市が積極的に主体となって手入れすることを提案する。</p> <p>野生動物に対しては、森林と住宅地との境界の手入れをして見通しを良くするだけでも有効な対策になる。住宅地と接するところでは、安全リスクに関わるような対策も計画の中に取り入れた方がよい。</p>	<p>倒木に関しては、林縁部の災害防止の観点を整備方針として追加します。</p> <p>野生動物対策については長期課題として記載します。</p>	<p>以下を追加します。 市民が親しむ森林空間・・・ <推進に向けた対応策> ア 各森林の特性に応じた整備の推進 災害防止、生物多様性を記載 イ←旧ア</p> <p>理想の森林空間や理想の遊歩道などを例示します。</p> <p>長期課題の「シカ被害等の把握」に野生動物対策の記載を加えます。</p>	P44	Ⅲ-2 推進方策(1)	<p>みどり政策課</p> <p>みどり公園課</p>
10	—	安全対策	松下	<p>インストラクター協会の立場から事例紹介。 協会に植木三ノ岳の森公園の管理を要望されて、現地調査に数回行った。 野鳥を見るための小屋の周囲は森で、見晴らしは悪く、遊歩道には腐った幹がたくさん落ちてくる。枯木が多く、チェーンソーで処理できないほど非常に危ない状況。 桜が植えてある場所も日当たりが悪く開花は期待できない。ヒノキは非常に細く倒木の危険がある樹木が多い。地肌が陰になり全く日が入らない。 子どもたちを遊ばせる場所に適していない。 計画当初から10年後20年後を見通した樹木の選定を考慮しなければ、森の中が暗く危険になる。 経費をかけて整備されたであろう形跡は多いが、放置されている。 協会で整備するには、状況が悪すぎて諦めた。地元の方も活用したい思いはある。</p> <p>このような当初の目的が見失われた場所は多いので、今までにボランティア等で整備された方たちと情報を共有する機会もつつも有効かと思う。</p>	<p>今後の整備計画の参考とします。 現計画において、当該公園は、保健・レクリエーション機能を持つ森林として、森林環境教育の推進を図るうえで大切な場所と認識しています。 地域の方々のご意見も踏まえながら、施設の充実も含めた検討を進めているところです。</p> <p>管理に必要な水汲み場の設置などについて要望をいただいています。</p>	—	—	<p>みどり政策課</p> <p>みどり公園課</p>	
11	本編	天然林の利活用	勝木	<p>提案2) 天然林の利活用に取り組む必要がある。</p>	<p>計画に記載のとおり、市民が利用する(遊歩道等の整備された)天然林については、機能発揮のために手入れが必要な箇所の適切な整備を進めることとしており、公益的機能別にその施業方法についても規定しております。</p> <p>長期課題でもおもにレクリエーション機能を想定した課題が挙げられており、これらを天然林の活用に結び付けます。</p>	<p>長期課題として言及します。</p>	P55	Ⅳ長期的な課題	<p>みどり政策課</p> <p>みどり公園課</p> <p>花とみどり協働課</p>
12	—	天然林の利活用	松下	<p>事例を紹介。 枯れ木をカットしてチップにしカブトムシを養殖する。広場を作って、チップを入れて少し腐葉土化させると、カブトムシ等が自ら寄ってきて、多くの幼虫ができたが、この時はイノシシで全滅し、最初の柵作りからやり直すことになった。 樹木を植えて育てている。 それらの活動には全てに経費の問題があり、色々難しく試行錯誤している。 活動を通して子どもたちが喜ぶと、親も集うようになり、改善における話をするこもできる。</p>	<p>今後の利活用方策の参考とします。</p>	—	—	<p>みどり政策課</p> <p>花とみどり協働課</p>	
13	本編	森林データ	勝木 田口	<p>提案3) 森林の量と質をモニタリングし、データとして把握した上で森づくりの議論をされたい。</p> <p>次回の会議で、わかる範囲で示されたい。</p>	<p>市の緑被率データを用いて地図上で森林の変化を確認しました。全体的に竹林が増えていると思われること以外には、有意な変化は確認されませんでした。</p>	—	—	<p>みどり政策課</p>	

*該当頁・・・第I回:2025年7月24日第I回協議会資料「中間見直し」

番号	★該当頁	該当項目	委員	意見の内容	対応方針	反映内容	本編 初版頁	反映項目	関係課
14	第I回 36	上位計画との 整合 竹林対策	高宮	放置竹林の管理数自体が竹林の拡大を抑えるという記述をした方がよい。その場できちんと管理することで竹林の拡大を防止できるので、運用方法の議論よりも根本的な放置竹林管理の内容を含めた方が健全な森づくりになると思う。そういう視点が入るようなら記載されたい。	文言の追加・反映します。	以下の趣旨の文言を追加します。 「活動団体及び対策実施箇所数を増やしていく」	P40	Ⅲ-1 方向性(2)①	みどり 政策課 花とみどり 協働課
15	第I回 34 ほか	森林整備 森林環境譲 与税	光田	森林経営管理制度で、人工林を熊本市がどう取り扱うかという森づくりの計画となる。 多面的機能を高める目的と合致するよう、どの場所でどのような間伐をするのか、委託を受けるのか、森林環境譲与税を使うのかという方向性が示されるとよい。質の良い用材をつくるための間伐と、機能を高めるための間伐とは全く違うはず。	本市では、多面的機能の中でも山地災害予防の観点から、針広混交林化等に向けた人工林の間伐を実施しています。 第I章Ⅲ-3【森林の機能区分ごとの目指す姿と施業の方法】等を踏まえ、地区ごとに重視される機能に応じた整備を行うこととしています。	ゾーニングに応じた施業を行うことについて記載します。	P47	Ⅲ-3 機能区分ごとの 目指す姿	みどり 政策課 みどり 公園課
16	第I回 35	長期的課題 の整理	草野 田口	森林ビジネス・木育ビジネス、里山利用再生の取組、学校林の活用について、優先順位を上げていただきたい。 次回以降の会議で、これらについてのアイデアを委員の皆様からご提案いただきたい。	長期課題をグルーピングします。 優先順位はつけないこととします。	分野別に3つにグルーピングします。 (優先順位は付けない) 適宜文章を追加します。	P55	Ⅳ長期的な課題	みどり 政策課 みどり公園課 花とみどり 協働課
17	本編		高宮	Ⅱ.熊本市の森林の状況には、生物多様性機能という言葉が出てくるが、熊本市の森づくりの方向性と推進方策のところでは見当たらない。森づくりの方向性のところにも入れられないだろうか。	森林の有する多面的機能の高度発揮(生物多様性保全)に向けた森林整備が重要であると認識しており、人工林の針広混交林化や広葉樹化への誘導を図ることとしております。(Ⅲ-1.森づくりの方向性にて言及)	以下を追加します。 市民が親しむ森林空間・・・ <推進に向けた対応策> ア 各森林の特性に応じた整備の推進 災害防止、生物多様性を記載 イ←旧ア	P44,45	Ⅲ-2 推進方策 (1)(3)	みどり 政策課 みどり 公園課